

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290200203		
法人名	株式会社大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホーム賀田		
所在地	青森県弘前市大字大久保字西田98-4		
自己評価作成日	令和2年8月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を心掛け、生活の中で出来ることは行っていただくと共に、お互いの助け合い精神も大切にしている。職員に関しては利用者様の尊厳を大切に、心にゆとりを持ちながら接してもらうよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅街の中にあり、近所の子どもの声が聞こえたり、道路を通る車や人の姿が日常的に見え、ホームもホームで暮らす利用者たちも地域の一員として感じることができる。建物は木造で、温かみがあり、居室はもちろんホーム内は整理され、居心地よく生活ができるように福祉サービスの提供がされている。敷地内に畑があり、野菜の成長を見たり、収穫するなど日常的な楽しみもあり、生活に潤いがある。看取りは行っていないが、次の居場所へ移る場合も丁寧に相談にのり、心配や不安がないように対応しており、利用者や家族が安心して生活が送れるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を取り入れ、地域との交流や家庭的な生活、尊厳を大切にされた支援の提供をしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業理念がある。館内に理念を張り出し、唱和する等して管理者と職員はその理念を共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りへ毎回参加している。また、近隣の小学校から行事の招待を受けて参加している。	町内会に加入しており、運営推進会議に町内会の役員が参加している。また、ホームの近くを散歩したり、公園に行って地域住民と話したり、他の事業所の夏祭りに参加する等、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について勉強会を行っている。出席した民生委員や町会長が老人クラブで普及活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」に基づき、文書による開催としている。委員からは、コロナウイルスについての意見や要望を文書でいただいている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。現在はコロナ禍であるため、資料を送付して意見をいただいている。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合い、会議での意見をサービス向上に生かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在は新型コロナウイルス感染の予防のため、文書や電話等で協力していただいている。	コロナ対応や生活保護の受給者について市役所と連絡を取ることが多い。利用者の生活を伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止及び適正化委員会を設置し、3ヶ月に1度研修を行っている。新規採用職員研修も同時に行っている。	身体拘束は行っていない。マニュアルを整備し、身体拘束廃止及び適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、運営推進会議で状況を報告している。内部研修で身体拘束がもたらす悪影響を理解しており、日常的に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者による虐待防止についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設けて勉強をしている。成年後見制度を活用する場合は、関係機関と連携している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの入所、退所等の相談や要望には、不安が解消できるように迅速に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時、意見や苦情がないかを確認するようにしている。意見や要望は真摯に受け止め、運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議には利用者也参加して、意見を述べることができる。面会時に家族等の意見を聞き、職員で共有し、ホームの運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行っているほか、スタッフ会議等で意見を聞いている。	朝夕の申し送り時に意見を言う機会があり、常に話し合いができる体制になっている。必要に応じて、経営者にも相談でき、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の相談に応じて、やりがいを持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修への参加や職場内研修で対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェに参加し、交流を図っている。同業者とは電話で情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたり、困っていることや不安、要望を傾聴している。伝えることが困難な場合は、気持ちを読み取り、安心感を与えられるような関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に本人、家族と話し合い、意向に耳を傾けることで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で、一番の困りごとを介護計画に取り入れている。他の職種と連携して、必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることは行っていただき、その人らしさを大切にしながら家庭的な生活を送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や広報新聞で日頃の状況をお伝えして、家族とともに本人を支えていく取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「娘の声が聞きたい。さみしい。」と訴えた利用者に対して、電話を取り次ぐ等、安心した生活が送れるように支援している。	入所前の生活歴を把握して、本人が入所前に交流していた人や場所との関係が途切れないように面会を受け入れたり、利用していた美容院や理容店へ外出する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格を把握して、関係が悪化しないような環境作りでトラブルを未然に防いでいる。また、協力して軽作業を行っていただく等、関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される利用者の今後の方針や情報、ケア等を転居先の関係者に伝えて、相談や支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む生活を実現するために、傾聴して思いに寄り添う等、会話や表情から探っている。	主に担当が本人を見ているが、利用者一人ひとりの要望や思いを把握するために、職員全体で見守っている。様子や態度に気をつけ、本人本位の支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族、支援担当者と話し合い、今までの生活の経緯をアセスメントして情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や心身状態、排泄状況等をケース記録に記入して把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会が頻回にある家族には介護計画書の説明をしている。家族と疎遠な利用者については、本人の意向を取り入れた介護計画を立てている。	3ヶ月に1回モニタリングを実施して、介護計画の見直しを行っている。本人の希望を聞き、職員が意見を出し合い、家族の要望を聞き、本人にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者を中心に申し送りやケア会議等で情報を共有し、記録を残して、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルスで外出を自粛しているため、ホーム内レクリエーションを行い、ニーズに対応している。終息後、紅葉狩りや外食を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校行事や町内の夏祭りに参加して、コミュニケーションをとり、楽しい生活に繋がっている。今年は、コロナの影響で中止となっているが、再開後は継続していく予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を希望されている場合は、継続して受診している。連携医療機関を受診する際は、利用者と家族から了解を得ている。	入所前の病院へ継続して通院することができる。月2回訪問診療の医師が来所し、受診することもできる。専門医受診については、通院方法や受診結果について本人と家族の同意を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りのほかに、業務中にこまめに情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーを活用し、病院関係者との情報交換をしている。必要に応じて担当者会議を開いて連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていない。重度化した場合は、家族や医療関係者と連携を図りながら今後の方針を話しあっている。	看取りは行っていないことを入所時に説明し、了解を得ている。ホームでの対応が難しくなった場合は、本人や家族と一緒に医療機関や関係機関と相談しながら、利用者の入居場所を決めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して全職員で周知徹底し、応急手当や初期対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練(夜間訓練を含む)や近隣の消防署と連絡体制を強化し、消防署からの指導を受ける予定となっている。	年2回定期的に利用者、職員と夜間想定も含めて、避難訓練を実施している。消防署とも連携していて、定期的に設備点検も行っている。火災のみならず、水害や地震等さまざまな災害時に対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中で「尊厳を大切に生活提供」をあげており、適切な声掛けとプライバシー等に配慮した対応をしている。	理念の中に「個人の尊厳」があり、理念のもと本人の尊厳を傷つけることのないように配慮している。利用者は「さん付け」で呼び、日常的にことば掛け等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服や買い物時の購入品を自分で選ぶ等、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や能力、一人ひとりの希望やペースに合わせて支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望される場合には、カットや髪染め、髭剃り等、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の後片付けを中心に利用者がお手伝いをしている。また、行事食を取り入れ、食事が楽しみになるように取り組んでいる。	食事の準備を手伝うことができる利用者があり、職員と一緒に準備と片づけを行っている。献立は職員が作成し、利用者の嗜好を考慮し、食事が楽しみになるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食や水分摂取量を把握して、好みや苦手なものを考慮してバランスのとれた食事を提供している。水分確保には好みを重視して、摂取しやすいように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者一人ひとりの状態と能力に応じたケアを実施している。歯科医師と連携をして口腔状態の観察ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	表情や行動を観察している。トイレでの排泄が可能になった利用者は、便秘も改善傾向にある。	一人ひとりの排泄記録を記入している。排泄の自立を目指して、定時排泄を促したり、オムツをできるだけしないように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、毎日リハビリ体操を行う等して、水分摂取量の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	その日の体調を考慮した声掛けをしている。また、入浴剤を使用してリラックスしてもらい、心身の安定や安眠につながるよう支援している。	週2回の入浴を基本として、個別に入浴を実施している。自立できている利用者もいて、見守りをしながら、安全に入浴ができるように、本人の状況に応じて支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、個々に休息している。就寝時は一緒に入床準備を行い、安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は施設で行い、一人ひとりの病気を把握したうえで職員がチェック表を活用して、飲み忘れがないように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活を継続できるような支援を心掛け、畑の水やりや収穫、食後の後片付け等、一人ひとりの能力を活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設の外出行事や地域行事への参加、食材の買い出しに同行している。現在は新型コロナウイルスのため自粛している。	定期的に外出の機会を設け、花見やねぶた祭等、季節に応じた外出支援をしている。個別に買い物に出かけたり、家族が外出に引率することもある。ホーム近くを散歩したり、近くの公園に行くこともある。今年度は新型コロナウイルスの影響で外出を控えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出の際、財布から支払いができるように援助をしている。家族の同意のもと、少額を持たせている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎを支援している。また、手紙やはがきの代筆や代読の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度は頻繁にチェックして、眩しい光や大きな音等、刺激がないように配慮している。また、季節を感じられる生花や飾り付けを一緒に行い、心地良い居住空間を提供している。	居室、ホール等の共有スペースの湿度や温度は適切に管理されている。ホームにいても季節を感じることができるよう花を飾ったり、展示物を工夫する等、居心地の良い空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファがあるホールとは別に、廊下に一息できる空間があり、思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬり絵が好きな利用者の居室には、専用のテーブルとぬり絵を用意して、いつでも楽しめるように支援している。	在宅時に使用していた物を自由に持参してもらっている。居室は利用者が過ごしやすいように整理されており、持ち込みが少ない場合は、本人と職員と一緒に居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや教室等には、目印を表示して混乱しないように配慮している。教室内は導線を確保して、できることとわかることが継続して行えるように支援している。		